

## スーパービジョンに対する抵抗の問題

—スーパーバイザーにとってのその意味と、スーパーバイザーに求められる対応—

吉備国際大学 石田 敦 (会員番号 877)

キーワード: 抵抗、スーパービジョン関係、スーパーバイザー

### 1. 研究目的

スーパービジョンに対してスーパーバイザーが示す抵抗の問題を扱う。スーパーバイザーの中には、スーパービジョンに不安や不満を抱き、スーパービジョンを快く思わない者が含まれることが想定されなくてはならない。特に、スーパービジョンが制度として社会福祉現場に導入されるようになれば、不本意ながらスーパービジョンを受ける者も増えていくことが予想される。こういったスーパーバイザーは、スーパービジョンに対し様々な方法で抵抗を示し、スーパービジョンを機能させなくする可能性がある。一方スーパーバイザーがこれらの抵抗に不適切に反応するなら、これらの抵抗を解決できないのはもちろん、一層強化することにもなりかねない。そこで、スーパービジョンをその目的に即して機能させようとするなら、こういった抵抗にどのように対応するかは重要な課題となる。本研究は、スーパーバイザーがスーパービジョンに示す抵抗という問題を、抵抗の理由および背景、また抵抗が表現される方法の点から検討することを通して、スーパーバイザーに求められる対応の在り方を論じる。

### 2. 研究の視点および方法

スーパービジョンでの体験それ自体がスーパーバイザーに不安や苦痛を生み出す可能性があることは広く認められている。よって、スーパーバイザーの示す抵抗という問題は、予期される現象として理解されなくてはならない。またこの抵抗の問題は、スーパーバイザーとスーパーバイザーの間の相互の役割期待の不一致についてのスーパーバイザーの側からの表明を意味し、両者間の関係における形成の失敗もしくは崩壊を意味するものとして理解されなくてはならない。しかし同時に、この抵抗という問題は、スーパービジョン関係の形成のための介入ポイントとしての肯定的意味合いを持つものとしても理解されなくてはならない。このような理解に基づく視点を本研究の基軸にすえ、スーパーバイザーの示す抵抗の問題についての論議を進める。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、「日本社会福祉学会研究倫理指針」を順守し、倫理的配慮を行う。

### 4. 研究結果

スーパーバイザーがスーパービジョンに抵抗を示す理由および背景は、多くの部分、ス

スーパービジョン過程それ自体の特性と不可分な関係にある。つまり、まずスーパービジョンを受けるという体験自体が未知の特殊な体験であり、スーパーバイザーにとっての役割期待がわかりにくいことである。スーパービジョンの目的や方法について明確な合意を欠くままスーパービジョンが実施されることも、この不確かさを強化する。さらに綿密な観察の下に置かれることは、緊張や不安を高める。そして行動や選択の自由が制限され、慣れ親しんだ行動や考え方を修正するように求められることで、依存を求められ、幼児化された扱いを受けると感じられることもある。さらに自己覚知やリフレクションを通して、自身の態度や考え方に関心が向けられることは、プライバシーの領域に侵入され、パーソナリティを問題視されていると感じられることもまたあり得る。そして、評価を受けることで、無知・無能力が暴露されるという恐怖も、有能でなくてはならないと強く思っているスーパーバイザーには不安の要因となる。

次に、スーパーバイザーは、これらの抵抗を言語化して明示的に表現することもある一方で、スーパーバイザーの置かれている立場を考える時、行動化により、それらを様々な言動や態度に置き換える可能性をも考慮しなくてはならない。たとえば、セッションへの遅刻・欠席、セッションの準備に対する怠慢、報告内容の制限、責任転嫁、責任回避、理屈をつけた反論による合理化、そしてゲーミングである。

これらに対し、スーパーバイザーが取るべき対応方法としてまず求められることは、抵抗が起こってからではなく、起こる前に想定して対応しておくことである。そのためには、開始時にスーパービジョン契約の締結によりスーパービジョンの構造化を図り、スーパービジョンの目的や方法について合意しておくことで、スーパーバイザーにとっての役割期待を明確化しておくことができる。そして、すでに抵抗が生じていると思われるなら、抵抗をノーマライズして、抵抗の背後にある不安や不満を言語化させ、潜在化した抵抗を顕在化させることが必要である。このことにより、両者間の誤解や認識のずれを明確化し、解決するように取り組むことが出来る。また特に、ゲーミングに対してはその誘いに乗らずスーパーバイザーをこれらに直面させることが望まれる。さらには、現在のスーパーバイザーの態度に影響を与えているかもしれないスーパーバイザーの過去のスーパービジョン体験を語らせ、共有することも有効な方法となり得る。

## 5. 考察

スーパーバイザーの抵抗は、程度の差こそあれ想定しておくべきことであり、決して避けられるべきではなく乗り越えられるべき課題である。スーパーバイザーの抵抗に対応することで成し遂げようとしていることは、結局は、信頼に基づく安定したスーパービジョン関係を形成し、否定的に見なされがちなスーパーバイザーの権力および権威を肯定的に機能させることに他ならない。スーパーバイザーにとって、スーパーバイザーの抵抗に適切に対応する能力は、スーパービジョン関係形成のための能力の本質的な一部を構成する。